

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2025年6月
第61号
(年4回発行)

夏号

発行部数3千部



住職インタビュー「夏の思い出」

シリーズ浄土宗／お施餓鬼の法要

実践教室／お香典の由来と不祝儀袋の作法

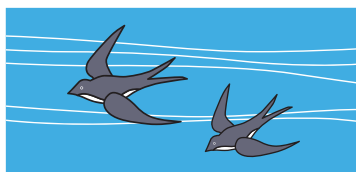
お盆会・合同新盆法要のご案内ほか



西願寺本堂



丹羽義昭住職



問 今回の「さんが」は夏号ですが、夏というと花火大会や夏祭り、盆踊りなど季節ならではの行事が多いですね。中でも盆踊りは仏教にまつわる行事だったのだとか…。

住職 そうですね。増上寺でも毎年七月に地藏盆踊り大会を開催していますし、盆踊りは江戸時代頃からは広く民衆に広まりイベント色が強くなっていったのですが、起源は平安時代後期の念仏にあるそうです。最近では有名なところは別として、近所でやっていたような盆踊り大会は、開催場所や騒音の他にも地域での後継者問題などあって開催しているところも少なくなっていますよね。時代に合わせてだんだんと無くなっていくものの形を変えていくものもあるのではないのでしょうか。

問 確かに送り火やお盆飾りなど、お盆の迎え方なども生活や時代に合わせて変化していますね。

住職 こちら辺は農家が多かったので、

お盆の棚経に行くと仏壇の前に四隅に竹を立てて設えている精霊棚に仏壇から出した代々のお位牌とその人数分の小さなお膳を並べてご先祖さまをお迎えしていたのですが、今はそうした精霊棚を祀っている家庭も少ないのではないかな。

問 小さな器が沢山並んでいたなんておままごとみたいで賑やかなお盆飾りですね。

住職 お盆でお迎えしたご先祖さまの霊をおもてなしするという意味なのでしよう。

問 お盆の時期は棚経の為に檀家さんの家を忙しく回るお坊さんが風物詩のように言われていた時期もありましたが、ご住職も子どもの頃から前住職と棚経に行かれていたそうですね。

住職 はい。私は、小学生の時に得度して父親（前住職）について棚経に行

っていました。

最初は子どもだったのでおまけみたいなもので、お檀家からは「よしあきちゃん」と呼ばれ可愛がってもらったのを覚えています。そのうち住職と手分けして一人で行くようになったのですが、お盆の3日間、暑い時期に衣着て自転車をこいで一軒一軒回っていると汗だくになってね、その頃はエアコンがある家の方が少なくて、それでもたまにエアコンがついている家に行くと今度は汗が一気にひいて冷えちゃってブルブル震えてしまつて（笑）。

問 大変だった分、思い出深いエピソードも多かったんですね。今は棚経には行かれていないのでしょうか？

住職 現在は、お檀家の家庭環境も変わっていったこともあって昔のように一軒一軒の家を回る事が難しく、お寺の本堂での新盆法要や合同盂蘭盆会を執り行うようになりました。お寺に足を運んでもらうことでより身近に感じ

てもらいたいと思っています。

問 盂蘭盆会は、ご先祖さまに思いを馳せ供養する機会ですので皆さまにご参加して頂きたいですね。本日は、ありがとうございます。

■新盆供養

8月4日（月）10時〜

■盂蘭盆会合同供養

8月13日（水）10時〜

場所 西願寺本堂



西願寺本堂

お施餓鬼の法要

西願寺では毎年5月に、そして、多くの浄土宗寺院で5月から8月のお盆前後にかけて営まれる「施餓鬼会法要」は「おせがき」とも呼ばれ親しまれています。

施餓鬼会はその字の通り「餓鬼道に堕ちて苦しんでいる者に施しをする」という仏教行事です。



西願寺 施餓鬼法要



仏教には、「あらゆる存在は行いによって六つの世界に生まれ変わりを繰り返す（六道輪廻）」という考えがあります。餓鬼の世界はその一つでお施餓鬼は、文字通りこの世界に住む餓鬼に施しをする法要です。その由来は「救拔焰口餓鬼陀羅尼經」というお経に説かれています。

お釈迦さまの十大弟子の中で阿難尊者は誰よりもお釈迦さまの話しを聞くことから「多聞第一」と言われていました。ある夜、阿難尊者が瞑想をしていると、口から火を吐きながら現れた餓鬼がこう告げました。「お前は三日後に死に來世は餓鬼に生まれ変わるであろう」その苦から逃れる方法を聞く阿難に餓鬼は「明日中に餓鬼道に住む何千万という餓鬼のために飲み物や食べ物を用意し仏法僧に供養せよ。そうすれば、わたしをはじめ多くの餓鬼が救われ天界に生まれ変わることが出来る。お前も餓鬼道に堕ちる苦から逃れ寿命も延びるだろう」と言ったのです。翌日、阿難尊者はお釈迦さまに相談に行き、その教えに従い餓鬼のために飲食を施し、供養の法要を営みました。この功德により餓鬼は餓鬼世界の苦しみから救われ、阿難尊者も災難を逃れ命も延びました。

この故事がお施餓鬼の由来となり、施餓鬼会では、各家のご先祖様、また有縁無縁の一切の生物の礼を慰め、あわせて供養する法要が営まれるのです。

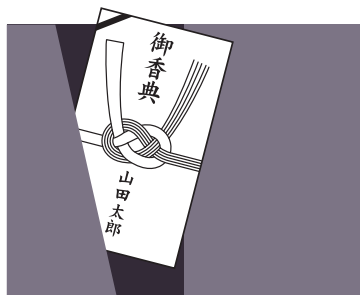
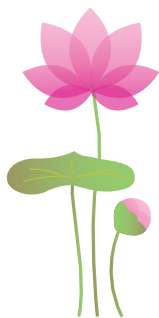
お香典の由来と

不祝儀袋の作法

お香典は元々「香奠」という字が用いられていました。「香」はもちろん霊前にお供えする香・線香のこと。「奠」という字は神仏に物を供えて祭るという意味があります。古来の葬儀儀式の際に昔の人は故人との最後の別れに米や麦、食料やお酒を持ち寄り葬儀の際の食事に充てていたそうです。

やがて時代を経ると、それらは香や花で弔慰を表すものとなりました。

現在では、お香典はお香に変わる香の料（代金）との意味で現金を供えるようになりました。また、近年は故人への供養とともにその遺族の葬儀費用の一部を負担する意味合いも強くなっています。



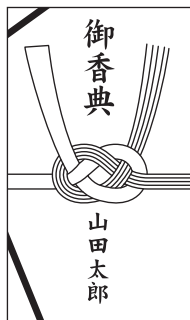
香を供える代わりに お金を包むのが香典

お香典は袱紗に包んで持参します。日本では、贈答品などを直接手で持つて渡すことは失礼なこととされ、献上台やお盆などを使う形式がとられていました。香典を出すときは受付直前まで袱紗に入れておき、その場で開いてお香典だけを渡します。

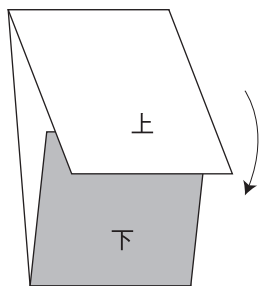
不祝儀袋は、慶事とは違った表書きの書き方や包み方の作法があります。表書きの書き方は宗教・宗派によって異なります。できれば喪家の宗派の作法に合わせるとよいのですが、わから

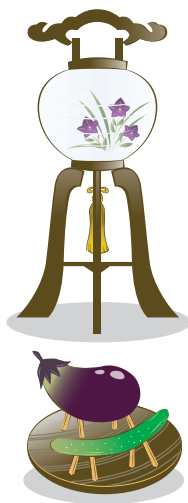
なければ「御香典」と書いてもよいでしょう。多くは、四十九日までの供養に「御霊前」を、それ以降は「御佛前」を使います。（浄土真宗では「御霊前」は使わず、通夜、葬儀も「御佛前」にします）。また、包み方では裏の折り返しは下側を上にして天を仰ぐようにする慶事に対し、弔事では上側が上になつてうつむく様子を表すように折ります。

外袋



外袋 たたみ方





Q & A



6月に祖父が亡くなりました。新盆はいつになるのでしょうか？



新盆(初盆)は、基本的には四十九日のご法要をお勤めした後(49日を経過して)初めて迎えるお盆のことを言います。お盆の期間は一般に8月13日から16日の4日間である場合がおおく、その場合6月の中旬ごろまでに亡くなられた方は、その年のお盆が「新盆(初盆)」に、6月下旬以降に亡くなられた場合は、翌年のお盆が「新盆(初盆)」になります。尚お盆の期間は地域によっては7月13日から16日の4日間で行われることもあります。新盆(初盆)は亡くなられた方を偲ぶ大切なご縁ですので、ぜひお勤め下さい。

季節の雑学

夏が旬の野菜 冥加の逸話

夏が旬である日本独自の香味野菜“茗荷”。独特の香りと美しい色に、バテ気味の夏の日でも食に爽やかさを味付けしてくれます。でも…「茗荷を食べすぎると物忘れがひどくなる」。そんな話を聞いたことはありませんか？これはお釈迦さまの弟子にまつわるこんな逸話からきているようです。

お釈迦さまの弟子の一人、周利槃特(チューダ バンダカ)は、弟子の中でもっとも愚かで頭の悪い人だったと伝えられ、仏弟子となって四ヶ月を経ても一偈をも覚えることができなかつたそうです。そんな話しからか、彼は自分の名前すらすぐに忘れてしまうので首から名札を下げていたとも伝えられ、彼の死後その墓の辺りに繁った植物に村人が、名前を荷なう(自分の名を覚えられず名札を背負っていた)という意味の「茗荷」と名付けたという説があり、この話しから「茗荷を食べすぎると物忘れがひどくなる」という俗説が生まれたのだとか…。

実際に茗荷を多く食べたとしても、もちろん物忘れなどしません。むしろ、茗荷のもつ香り成分には、食欲増進や発汗作用のほか、記憶や集中力を高める脳の働きを活性化する作用もあるそうです。

ちなみに、茗荷はその音から冥加(知らないうちに受ける神仏の加護)に通じることから縁起を担ぎ家紋などにも多く使われています。



掲 示 板

西願寺

大施餓鬼会法要

令和7年5月25日(日)



西願寺では、毎年5月に大施餓鬼会法要が執り行われます。施餓鬼会は、先祖追福のために、また一切の生物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う法要として営まれます。

西願寺 お盆会のご案内

お盆会 7月13日(日)～7月15日(火)

旧盆会 8月13日(水)～8月15日(金)

■ 合同新盆供養 ■

日時 令和7年8月4日(月)
10時～

場所 西願寺本堂

■ 孟蘭盆会合同供養 ■

日時 令和7年8月13日(水)
10時～

場所 西願寺本堂



塔婆お焚き上げについて

当霊園では、塔婆のお申込み又は、墓所に立てる際に、塔婆お焚き上げ料として1本につき1,000円を頂戴しております。



※お皆様ご同行の方(当霊園以外で塔婆をお申込みの方)は墓前に塔婆をあげる際に管理事務所にお申し出ください。

彩の都メモリアルパーク
管理事務所

■ お便り募集 ■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆ イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部

東京都千代田区麹町二・十三・一〇一

FAX 03 (32205) 1302

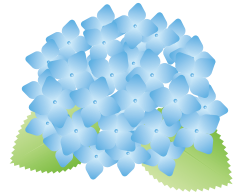
Mail : info@io.co.net

■ 次号予告

次号は令和七年八月発行予定の「秋号」です。

参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789



◆編集後記◆

もうすぐ一年の中で日の出から日の入りまでの時間がもっとも長い日である夏至ですね。夏至は二十四節気のひとつで天文学的には毎年6月21日か22日になるのですが、日付だけみると夏というよりは梅雨；とは言っても早々に夏のような気温になる日が年々増えているので季節を表す言葉については何とも言えませんが夏に至るちよつと前に発行する、この「さんが夏号」も夏と語るには早い気はしていましたが、最近は体感的には（もうすぐ）夏号でも間違っていないと思えるようになりました。

さて、3項では「お施餓鬼の法要」について掲載しています。お盆の時期に行う寺院も多く「施餓鬼会」と「盂蘭盆会」の法要の由来となっているお経に説かれている内容もよく似ていることから同じものと勘違いされる人もいます。簡単に説明すると「施餓鬼会」は、仏説救拔妬口陀羅尼経で主な登場人物は、餓鬼・阿難尊者・お釈迦さま。「盂蘭盆会」は、仏説盂蘭盆経。主な登場人物は、目連尊者・餓鬼道で苦しんでいる母・お釈迦さまです。西願寺では5月に大施餓鬼会法要、8月に盂蘭盆会合同供養を執り行っています。ぜひ足をお運びください。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三三〇〇一〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三〇〇一〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部